令和8年度

鳴門市堀江北小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○「わかる」「楽しい」と思える授業作りを基盤とした、生活・学習習慣の確立
○児童自ら粘り強く考え、主体的に表現するための手立てと評価の工夫

校長	学力向上推進員
矢部　淳	田岡　恵

【各校の取組状況の把握について】

保護者・児童・教職員によるアンケートや児童の学習達成状況等により、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○家庭学習や授業中の与えられた課題に対し、真面目に取り組むことのできる児童が多く、基礎・基本的な力が少しずつ定着してきている。 ●国語、算数ともに、学年が上がるにつれて基礎・基本的な問題であっても、理解の個人差が大きくなり、個別指導の必要な児童の割合が高くなる。 ●書く力、聞く力、語彙力など学力の下支えとなる力が弱い。	・これから学習する内容や、他教科の学習、生活の場面で生かせる基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。	・単元を通して身につけさせたい資質・能力を明確にもち、学習課題に出合う際の導入等を工夫することで、児童が課題解決へ向けて見通しをもって学習できる授業づくり行い、基礎的・基本的な知識や技能を習得できるようにする。 ・漢字・計算のチェックテストや、AIドリル学習を繰り返し行い、児童自身が目標を明確にして基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。 ・個別指導が必要な児童に対しては、ステップアップタイム等を利用し、補充学習をする。 ・振り返りの時間を確保することで、既習内容と本時の授業内容を結びつけたり、新たな問題を見出したりすることを促し、他の教科や生活の場面で、知識・技能を生かそうとすることができるようにする。 ・担任による読み聞かせを行い、学年に応じた聞く力や語彙を獲得できるようにする。 ・児童が具体的にイメージしづらい学習内容等では、体験を取り入れたり、デジタル動画等活用をしたりすることで、分かりやすい授業づくりを行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ペアやグループ活動を授業の中に取り入れたことにより、自分の考えを伝えようとする児童が少しずつ増えてきている。 ●内容を正確に読み取り、筋道を立てて考えたり、目的に応じて書いたり話したりすることが苦手な児童が多い。 ●算数では資料活用、国語では文章構成や要約の問題が弱い。	・内容を正確に読み取ったり、友達の意見を正確に聞いたりして、自分の考えをもち、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを豊かに表現することができる。 ・学習課題に対して、自分の考えをもち、他者と比較したり、照らし合わせたりするなど、話し合い活動等を通して考えを深め、表現することができる。	・各教科において自分の考えを深めるため、ペア学習やグループ学習の機会を意図的に設定する。 ・様々な授業において、根拠を明らかにして自分の考えを話したり、自分の考えや学習のまとめ・振り返り等を書いたりする活動を積極的に取り入れる。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用することで、必要な情報を整理し、適切に自分の考えを表現できるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○家庭学習（宿題）や与えられた課題に対して真面目に取り組む習慣が身に付いている児童が多く、できるようになりたいという素直さがある。 ●不得意な学習内容に対して自ら課題を見つけ、解決方法を考えて根気よく取り組むことが苦手な児童や、自分から新たな学習課題や学習の面白さを見い出し、積極的に学習に向かおうとする児童が少ない。 ●図書室の利用が少なく、読書の習慣が身に付いていない児童が多い。	・学習課題に対して、自ら問題を見い出したり、自分の課題を設定したりして、意欲的に学び、解決していこうとすることができる。 ・不得意な学習や、一度では理解できなかった学習に対しても、他者との共同を通して自己の考えを広げたり、自分の振り返りをもとに、繰り返し考えを深めたりして、粘り強く学習に向かうことができる。 ・図書室を積極的に利用し、朝の読書活動等で読書の楽しさを感じ、意欲的に読書に取り組み、家庭でも読書をする習慣を身に付けることができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」を参考に、児童の思考の流れを意識しためあての設定や振り返りのある分かりやすい授業づくりを行えるよう、授業改善を図ることで、児童が主体的に学び、学ぶ楽しさや喜びを感じられるようにする。 ・授業の導入からめあての設定後までの間に、児童の理解度を把握し、全員が課題を解決する見通しをもった上で、個人の学びに入るようマネジメントすることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・図書館サポーターと連携し、「読書カード」の活用や読み聞かせ、ブックトーク等を行うことにより、読書への興味・関心を高め、読書の質・量を高める。			